第 54 回　フランク王国とキリスト教①

1　ローマ帝国分裂後のキリスト教

・キリスト教で正統とされた（　　）には、五本山と呼ばれる５つの有力な教会があった。
※ローマ、コンスタンティノープル、アンティオキア、イェルサレム、アレクサンドリアの５つ。

・なかでも西ローマ帝国に保護された（　　）と、東ローマ帝国に保護された（　　）が有力であった。
→両教会は、キリスト教の（　　）をめぐって対立するようになった。

・476 年、西ローマ帝国が滅亡すると、ローマ教会は保護者を失い危機に陥った。
・６世紀に入ると、ローマ教皇（　　）を中心にアリウス派を信じる（　　）への布教が盛んに行われた。
→しかし４世紀にヒエロニムスによりラテン語訳されていた聖書を、ゲルマン人は読むことができなかった。

・６世紀から広がる（　　）運動は、民衆の教化に大きな役割を果たした。
※特に（　　）がイタリアの（　　）に開いた修道院は、「清貧・純潔・服従」という厳しい戒律を掲げた（聖ベネディクトゥスの戒律）。
「　　」をスローガンとした。

教皇グレゴリウス1世

大教皇と呼ばれることもある。ゲルマン人への布教に絵や聖像を用いたことは、布教の成功につながったが、後に大問題を引き起こした。

ベネディクトゥス

６世紀の人物。イタリアの修道士で、修道院の設立者としては最も有名な人物である。今のローマ教皇も、彼の名前にちなんでいる。

現在のモンテ=カシノ

モンテ=カシノは、イタリアのローマ近郊にある岩山である。「祈り働け」というスタイルの修道院は、他の修道院のモデルとなっていった。

2　フランク王国の発展

・496 年、フランク王国の建国者（　　）は、キリスト教で正統とされているアタナシウス派に改宗した。
→ローマ教皇や旧ローマ市民から支持されるようになり、フランク王国はゲルマン諸国家の中で最も強力な国家となっていった。

クローヴィスの改宗
裸のクローヴィスが、水をかけられて洗礼を受けている。他のゲルマン人は、アリウス派が多かった。

・534 年、ブルグンド王国を滅ぼして、ガリア（フランス）を統一した。
→しかし８世紀にはメロヴィング王家は衰えて、権力を失っていった。

・711 年、イスラーム勢力の（　　）は、アフリカからイベリア半島に侵入して（　　）を滅ぼし、ピレネー山脈を越えてガリアに侵攻した。
→732 年、フランク王国の（　　）を務める（　　）は、（　　）でウマイヤ朝を撃退した。
→カール=マルテルは英雄となり、フランク王国の実権をにぎっていった。

ジブラルタル海峡
ヨーロッパとアフリカの境となる海峡である。ウマイヤ朝のターリク将軍は、強引に岩山を超えてヨーロッパに侵入した。

宮宰カール=マルテル
後に「中世最高のプリンス」と評されたカール=マルテルは、この勝利によりキリスト教世界の救世主となった。

トゥール
フランス中部にあり、ロワール川沿いの重要都市である。ウマイヤ朝軍は、総司令官が戦死したために、ヨーロッパ侵攻をあきらめた。

3　ローマ教会とコンスタンティノープル教会

・726 年、ビザンツ帝国の（　　）は、偶像崇拝を厳しく禁じるイスラーム教に対抗するため、（　　）を出した。
→ゲルマン人への布教に聖像を使用していたローマ教会は、激しく反発した。

・ローマ教会とコンスタンティノープル教会の対立は、決定的となった。
→ローマ教会は、ビザンツ帝国に対抗するために新たな保護者を探し始めた。

4　カロリング朝の成立

・751 年、カール=マルテルの息子（　　）は、ローマ教皇の支持を受けてメロヴィング朝を廃し、即位して（　　）を開いた。

ピピン
小ピピンとも。兄がいたが、兄は修道院での生活を望んだため、ピピンが後継者となった。

☆フランク王国（カロリング朝）（751～987 年）
◆ピピン（３世）（在位 751～768 年）
・756 年、ピピンはイタリアの（　　）を攻撃して勝利した。
→獲得した（　　）をローマ教皇へ寄進した（ピピンの寄進）。
→（　　）が成立し、フランク王国とローマ教皇の関係がさらに強まった。